福山市や繊維業者ら

市花バラを使ったデニム

福山市がプロジェクト推進

剪定した枝を活用

福山市（枝広直幹市長、電084・928・1012）を中心に福山市内の繊維業者らが、市花バラの剪定の枝を原料に使ったデニムプロジェクトを進めている。2025年の世界バラ会議福山大会を見据え、デニム生地を使ったジーンズなどの商品化を想定。福山発のデニム製品として特産化も目指す。

プロジェクトは、さとうきびの搾りかす「バガス」から、デニム生地を企画製造するなどした㈱Rinnovation（東京都）が企画し、福山市花園町のばら公園で剪定した枝などを原料に備後撚糸㈱（福山市芦田町、光成明浩社長）が和紙糸に加工。糸を篠原テキスタイル㈱（同市駅家町、篠原由起社長、電同976・1511）がデニム生地に織り、市内の業者が23年度中に試作品を製造する。

バガスが原料のデニム生地を説明する篠原社長

ばらの剪定枝を粉砕、乾燥し原料化する工程もあり、一般に出まわるデニム生地に比べ、2倍ほど高価になるというが、「アップサイクル活動」として、環境意識の高い層に向けニーズは十分とする。植物成分のデニム生地化を多く手掛ける篠原テキスタイルによると、サラッとした肌触りのデニム生地に仕上がるという。

プロジェクトの周知のため、福山市は9月8日（金）、9日（土）の両日、福山市市民参画センター駐車場（同市本町）で地域で剪定したバラの募集イベントを開く。事業体では、既に福山市から剪定した枝約1tを収集した。

プロジェクトの企画役のRinnovationは「アップサイクル関連で行政からの依頼は初めて。事業者の連携を密にし念入りに進めたい」と、篠原テキスタイルの篠原社長は「SDGsの取り組みでもあり、生地はさまざまな用途提案をし、地域の魅力づくりになれば」とそれぞれ話した。